

紹

介

## 子どもの成長について、親や子どもに知らせること

—国際幼児教育連盟編—

### *Reporting on the growth of Children*

Association For Childhood Education International

Bull. No 62. 1953 p. 47

幼稚園や学校における子どもの成績を評価し、それを両親や子供自身に伝えることをリポートイングと言っている。リポートイングは単に子供の学業成績だけに行われるのではなく、学校における生活態度とか性格等の面についても、正しく、ありのまま伝えられる様に常に研究する必要がある。子供の要求とか現在直面している問題とか成長過程等あらゆる面をじっくり分に正確に把握し、理解したいと願っている教師や、両親達は協力してこの問題を研究せねばならない。この共通の目的を果すために、この小冊子は、いろいろの角度からこの問題を論じている。ここにその概略を紹介しよう。

先ず我々が対象とする子どもは決して抽象的なものでも又ある型にはまったものでもない。それぞれ異なった環境に生い育った、独自の存在である。しかし、又誰でも共通の発達の目的や課題を持っていると言う意味では普遍的なものである。又子供は独自の存在であると同時にそのパーソナリティーは総合的なもので

ある。だから子供を理解すると言うことは全体的な個人を理解することではなければならない。両親や教師はこの事をよく理解し、彼等の子供が持っている個々の要求や興味を日常生活を通してよく知っておくと同時に、子供の成長発達の全体的な歩みをよく理解するようにしなければならぬ。そのために必要なことは、先づ教師と両親がお互に信頼し尊敬するということである。この両者の望ましい人間関係が確立されて始めて共通の目的に近づくことができるのである。それから子供を客観的に観察することが重要である。子どもを理解するといっても、自分以外の人間そのものになりきることは誰もできないのであるから、その人間のありのままの姿をできるだけ客観的にとらえることが、他人をありのままに理解するのによりよい方法であるように思われる。そして更に、本当に子供の要求や成長を理解しようとするならば、子供自身が自分を理解することに一役買うべきなのである。というのは、何もむつか

しいことを言っているのではない。子ども  
の理解しうる範囲で、成長の上の簡單  
な目標を受けられるということである。  
教育の実際の目標としているところを子  
どももある程度知ることができるはずで  
あり、そのとき教師と親と子どもは、共  
通の目標をもつことができるのである。

#### リポーターイングの実際

教育の目標が知識的な分野だけなら  
ば、親に知らせるのも、従来の成績表の  
ようなものでよいかもしれない。しかし  
現在では教育の目標は単にそのみでな  
く子供の生活態度、習慣、社会的適応、  
情緒的安定にまで及んでいる。このこと  
を親にもよく理解させ、リポーターイン  
グはいつもこの様な問題に対して子供を正  
しい方向に成長させるのはどの様にす  
ればよいかと言うことを頭においてい  
ることを忘れてはならない。そこで、新  
しい形式のリポーターイングは、発達評価を  
主体とし、したがってこれは周囲の子供  
との比較ではなく、その子供自身の成長  
発達程度の評価であることが強調され

る。

人間のパーソナリティは独特であり  
総合的であると言う原理にしたがつて総  
合的個人を理解することが評価の目的に  
なるのだから、学業成績の評価もそれ自  
体が目的のではなく、例えば読み書き  
というようなことも、それは知的な市民  
にとつて必要な知識を得るための手段で  
あり、高尚な精神的刺戟をうけるための  
手段であることを弁まねばならぬ。

又この種のリポーターイングでは、現在  
の子供の様子を知らせるばかりでなく、  
子供がまだ出ききっていない能力を指摘  
し、将来どんな方向に才能をのばしたら  
よいかと言うことまで指導する。それによ  
つて子供は勇気づけられ、自信を持  
ち、更に努力して考え方や行動をより高  
いレベルに引き上げる様になる。そして  
子供は先生が自分を愛し、興味を持ち、  
信じていると感じる様になる。この事は  
全ての人間関係の確立の為の本質的要素  
である。

では実際にどんな形式のリポーターイン

グがどの様にして行なわれたらよいだろ  
うか。これは大別すると書面通知、父兄  
会、逸話記録の三つの形式で行なわれ  
ている。

書面通知は長い間極く一般的に使われ  
てきた。しかしその内容は学課成績がク  
ラスで何番位だとかテストの結果は正し  
い答がいくつあったと言うように、単に  
形式的な記事を盛っているに過ぎなかつ  
たり、或いはABCでもつて段階づけた  
り記号であらわずにすぎないものが多か  
った。しかし現代の教育哲学の研究の進  
歩により教育の目標もこれまであまり重  
要視されていなかかった性格、健康、習慣  
等の面にむしろ重点がおかれる様にな  
り、それぞれの子供についてこれらの特  
徴をつかみ記録するようになった。各個  
人は独特であり且つ総合体であるから同  
じ標準でそれぞれの子供の成長発達を測  
ることはできない。誰でも同じ段階を踏  
んで成長して行くのであるが、その程度  
や速度に於ては各人の型があり種々様々  
である。このようにそれぞれ異なつた型

の子供の成長過程を両親に正確に伝えるためには教師に相当の表現能力が期待され又、親の方にも教師の表現した言葉の真の意味を読みとる能力が要求されるのである。ある学校では、これらの期待に対する教師や両親の不安を除くために、そして正確なりポーティングが行われるために、性格や発達のあるあらゆる場面に関係した単純で確実な表現項目を設定しそれによっている。しかし表現方法は教師や両親の好きなようなものを使えばよいのである。どんな表現方法を使うにしても両者の役割を完全に果せるためには教師は充分な時間をかけてリポーティングの資料となるものをあらゆる方面からたんに念に集めておかなければならない。

父兄会の方法は、親と教師が実際に会って子供の成長発達について話会えるのであるから他のどんな方法よりも効果的である。会合の場所はいろいろな点から学校が一番便利の様である。しかし教師の方から各家庭を訪問することも子供の背景を知ると言う意味から必要なことで

ある。父兄会の利点は、教師と両親が直接面接し、彼等の最大の関心事である子供のことについて話合うのであるから、お互いに親しみを増し、よい人間関係が生じ、したがって相互をじゅう分に理解するようになることである。このことは学校教育の本質ともいえる。教師は親とよく話し合えばそれだけその子どもに関する知識が高まり、それによつてますます深く子供を理解するようになる。

逸話記録は日常の観察、自叙伝、日記、テストの成績表、面接記録作品等の一さいを含み、個人の成長発達の型を縦に観察するのである。この方法には一定の形式とか分析法がないので、すべて観察者の手腕により、生きた子供の現実が記録されるのである。よりよい記録をとめるためには他の方法と同様に時間をじゅう分かけて、いろいろな場面を観察し、それをある一つの中心点にまとめ上げて行かなければならない。そして実際に起つた行動や会話をより明確にするために、その背景となつている場面をこまかく記

録することも必要である。このような実際場面の記録から、その子供の適応の範囲や型がわかる。又教師の子供の行動をよく観察することによつて一人一人の子供をより詳しく理解するようになる。このことは不当に教師が子供をとがめたりすることがなくなり、子供の扱い方もよりよい方法が考え出されるだろう。

人間の現実の発達を我々がより深く詳しく理解するにつれて、その測定や評価の方法も変わってくるだろう。評価の方法にもこれでよいと言うことはない。親や教師、校長、いろいろな教育行政にたずさわっている人が協力して、評価の方法が常に検討され、よりよい方向に改善する様に常に努力されねばならない。

(横山節子・記)

× × × × ×

× × × × ×